

## Ⅲ 調査結果のあらまし

### 第 45 回市政に関する世論調査の結果

#### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

##### (1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割近くとなっている。

##### (2) 好きな理由

宇都宮市で好きだと思うところを聞いたところ、「自然災害の少なさ」がほぼ6割で最も高く、次いで、「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」と続いている。

##### (3) 嫌いな理由

一方、宇都宮市の嫌いだと思うところを聞いたところ、「街に活気がないところ」が4割を超えて最も高く、次いで、「交通マナーの悪さ」、「交通渋滞の多さ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

#### 2. 広報媒体の活用状況について

##### (1) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法について聞いたところ、「新聞折込で自宅に届いている」が8割近くで最も高くなっている。「手に入れていない」はほぼ1割台である。

##### (1-1) 「広報うつのみや」の閲読状況

「広報うつのみや」を入手していると答えた人に、どの程度読んでいるか聞いたところ、「くわしく読む」と「ざっと読む」と「関心のあるところだけを読む」を合わせた【読む（計）】は9割近くとなっている。一方、「あまり読まない」と「まったく読まない」を合わせた【読まない（計）】は1割を超えている。

##### (1-2) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」を読んでいると答えた人に、主にどの記事を読んでいるか聞いたところ、「市政情報（健康、文化、教養、税、雇用情報など）」が6割台半ばで最も高く、次いで、「宇都宮美術館、市文化会館、ろまんちっく村、図書館など市の施設の催し物情報」、「情報カレンダー（市イベントのカレンダー）」、「特集（市の重点事業）」、「相談窓口（法律・行政・健康など各種相談のお知らせ）」と続いている。

##### (1-3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していないと答えた人に、入手していない理由を聞いたところ、「入手方法を知らないため」が5割で最も高くなっている。

##### (2) 「広報うつのみや」で充実してほしい情報

今後、「広報うつのみや」で取り上げて欲しい、または充実して欲しい情報を聞いたところ、「身近な暮らしに関すること」が3割台半ばで最も高く、次いで、「市の行事や催しのお知らせ」、「保健・医療など健康に関すること」「市の各種制度や事務手続きの説明」と続いている。

##### (3) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

「広報うつのみや」以外の10の広告媒体について、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る

(聞く)」を合わせた【見た(聞いた)ことがある(計)】は、“インターネット(宇都宮市ホームページ)”が3割を超えて最も高く、次いで、“「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ””、“馬場町交差点にある電光掲示板”、“「ほっとHOTみや””、“JR宇都宮駅西口、鹿沼インター通り、平成通り、宇都宮環状線にある広報塔”と続いている。

#### (4) 市政情報を得るために利用したい手段

今後、市政に関する情報をどのような手段で知りたいか聞いたところ、「広報うつのみや」がほぼ7割で最も高く、次いで、「新聞」、「テレビ」、「ホームページ」、「タウン誌」と続いている。

### 3. 市政コールセンターと「よくある質問」について

#### (1) 市政コールセンターの認知度

コールセンターがあることを知っているか聞いたところ、「知らない」は9割近くとなっている。「知っている」はほぼ1割となっている。

#### (2) コールセンターの利用状況

コールセンターを利用したこと(電話をかけたこと)があるか聞いたところ、「利用したことはない」は10割近くとなっている。

#### (3) ホームページの「よくある質問」の認知度

ホームページに「よくある質問」の検索システムがあることを知っているか聞いたところ、「知らない」は8割台半ばとなっている。「知っている」は1割台半ばとなっている。

#### (4) ホームページの「よくある質問」の利用状況

ホームページの「よくある質問」を利用した(調べた)ことがあるか聞いたところ、「利用したことはない」は9割台半ばとなっている。「利用したことがある」は1割に満たない。

### 4. 延長窓口について

#### (1-1) 「延長窓口」の認知度

「延長窓口」を知っているか聞いたところ、「知らない」(51.0%)が5割を超えて最も高くなっている。「知っている(いずれの延長窓口も利用経験なし)」が3割台半ば、「知っている(いずれかの延長窓口の利用経験あり)」が1割台となっている。

#### (1-2) 知っていた窓口

前問で「1 知っている(いずれかの延長窓口の利用経験あり)」、「2 知っている(いずれの延長窓口も利用経験なし)」と答えた方に、どの窓口を知っているか聞いたところ、「住民票等の交付」が8割台半ばで最も高く、次いで、「所得証明書等の交付」、「市税の納付」、「国民健康保険税の納付」の3つが1割台で続いている。

#### (2) 延長窓口を利用しない理由

問12-1で「2 知っている(いずれの延長窓口も利用経験なし)」と答えた方で、延長窓口を利用しない理由を聞いたところ、「通常の窓口時間に本庁窓口や地区市民センター等で手続きを済ませている」がほぼ6割で最も高く、次いで、「市の窓口用事がない」と「土、日も開設しているバンパ出張所や自動交付機で手続きを済ませている」がともに1割台で続いている。

#### (3-1) 「延長窓口」の利用希望について

今後、「延長窓口」を利用したいと思うか聞いたところ、「利用したい」が5割を超えている。「利用したいとは思わない」は4割台半ばとなっている。

### (3-2) 利用したい窓口

前問で「利用したい」と答えた方に、どの窓口を利用したいか聞いたところ、「住民票等の交付」が8割台半ばで最も高く、次いで、「所得証明書等の交付」が3割台半ば、「市税の納付」が2割台で続いている。

## 5. 障がい者施策について

### (1) 障がいのある人が、自分の能力や特性に応じ、住み慣れた地域で安心して自立した生活を営むために、今後さらに充実すべき施策

障がいのある人が、自分の能力や特性に応じ、住み慣れた地域で安心して自立した生活を営むために、今後さらに充実すべき施策はどのようなことだと思いか聞いたところ、「道路や施設などのバリアフリー化の推進や交通手段の充実」がほぼ5割で最も高くなっている。次いで、「障がいに応じた職業訓練や働く場の確保など、就労支援の充実」、「日常的な見守りや助け合いなど、孤立を防ぐ支援体制の充実」、「身近に相談できる相談窓口の充実」の3つが3割台で続いている。

## 6. 健康診査について

### (1) 市の健康診査の受診状況

市では、女性では20歳以上、男性では40歳以上の方を対象に、がん検診等の健康診査を実施しているが、過去に市の健康診査を受けたことがあるか聞いたところ、「ない」が5割を超えて最も高くなっている。「ある（昨年受診）」、「ある（3年以内に受診）」、「ある（5年以上前に受診）」、「ある（5年以内に受診）」を合わせた【ある（計）】がほぼ4割となっている。

### (2) 受診しやすく、また、受診したくなる健診について

どのような健診ならば、受診しやすく、また、受診したくなるか聞いたところ、「低料金で健康診査が受診できる健診」がほぼ4割で最も高く、次いで、「短時間（待ち時間が短く）で受診できる健診」、「事前の予約をしなくても受診できる健診」、「一日ですべての項目（婦人科を含む）を受診できる健診」の3つが3割台で続いている。

### (3) 受診したことがない理由

市の健診を受診したことがない理由は何か聞いたところ、「職場や学校等で受診しているから」が4割台半ばで最も高くなっている。

## 7. 男女共同参画について

### (1) 家庭生活での男女の地位の平等感

現在、家庭生活で男女の地位は平等になっているか聞いたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた【男性優遇（計）】は5割台半ばとなっている。「平等になっている」は3割台で、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた【女性優遇（計）】は1割に満たない。

### (2) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の認知度

「仕事と生活の調和」すなわち「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、どの程

度知っているか聞いたところ、「言葉も内容も知っている」は2割近くとなっている。

一方、「言葉も内容も知らない」は3割近くとなっている。

### (3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する理想と現実

生活の中で、仕事、家庭生活（家族と過ごすこと、家事、育児など）、個人・地域の生活（ボランティア活動、社会参加活動、趣味、娯楽など）のうち、何を優先するかについて、【理想】と【現実】の2つに分けて聞いたところ、【理想】は、「仕事と家庭生活と個人・地域の生活のすべて」が2割近く、次いで、「仕事と家庭生活」、「家庭生活」、「家庭生活と個人・地域の生活」で続いている。【現実】は、「仕事」が2割台半ば、次いで、「家庭生活」と「仕事と家庭生活」がともに1割台の順となっている。

### (4) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去2年間に、夫や妻、恋人から暴力を受けたことがあるか聞いたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」の2つを合わせた【経験あり（計）】の割合は、“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”が最も高く、次いで、“身体に対する暴力を受けた”、“経済的な暴力を受けた”、“社会的な暴力を受けた”、“性的な暴力を受けた”となっている。

## 8. BSE検査について

### (1) BSEに対する意識

BSE(牛海綿状脳症)について、どんなことを思うか聞いたところ、「ニュースなどで多少不安になる」と「不安になることがある」を合わせた【不安になる（計）】は7割近くとなっている。一方、「特に気にしていない」と「不安ではない」を合わせた【不安ではない（計）】は3割近くとなっている。

### (2) 不安になる理由

問23で「2ニュースなどで多少不安になる」「3不安になることがある」と答えた方に理由は何か聞いたところ、「BSEの発生がまだあると思うから」はほぼ3割で最も高く、次いで、「リスクなどの科学的な根拠がよくわからないから」と「漫然とした不安」が2割台と続いている。

### (3) 全頭検査実施について

今後も全頭検査を実施することについてどう思うか聞いたところ、「リスクが変わらなくても、検査は必要である」は4割で最も高く、次いで、「検査する必要性はないが、安心のために検査は継続してもらいたい」が2割台半ばで続いている。

## 9. 住宅用火災警報器の設置義務について

### (1) 住宅用火災警報器の設置義務の認知度

すべての住宅等に住宅用火災警報器の設置が義務づけられたことを知っているか聞いたところ、「知っている」は9割を超えている。

### (2) 住宅用火災警報器の設置状況

現在、自宅に「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」を設置しているか聞いたところ、「住宅用火災警報器を設置している」と「自動火災報知設備を設置している」を合わせた【設置している（計）】は7割近くとなっている。

### (3) 設置していない理由

自宅に住宅用火災警報器を設置していない理由を聞いたところ、「どれくらい効果があるのかわからない」が4割を超えている。

## 10. 食育について

### (1) 「食育」に関する取り組み

日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしているか聞いたところ、「できるだけするようにしている」は3割台半ばとなっている。

### (2) 食育に取り組むための支援

食育に取り組むには、市がどのような支援をすると良いと思うか聞いたところ、「地元の食材を購入・飲食できる場所の整備」は5割近くで最も高く、次いで、「広報紙やインターネットによる食育に関する情報提供」と「学校・保育園などにおける食のマナーの推進」が3割台半ばと続いている。

### (3) 情報の入手方法

食育に取り組もうとしたとき、どこから情報を入手しているか、または、すると思うか聞いたところ、「新聞・雑誌」が6割近くで最も高く、次いで、「テレビ・ラジオ」が5割近くと続いている。

## 11. 健康について

### (1) 健康で充実した生活の認識度

毎日、健康で充実した生活をしていると思うか聞いたところ、「していると思う」と「まあまあしていると思う」を合わせた【していると思う(計)】は7割近くとなっている。一方、「あまりしていないと思う」と「していないと思う」を合わせた【していないと思う(計)】は2割台半ばとなっている。

## 12. 高齢者施策について

### (1) 介護保険制度の認知度

介護保険制度についてどの程度知っているか聞いたところ、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている(計)】は4割となっている。

一方、「ほとんど知らない」と「まったく知らない」を合わせた【知らない(計)】は5割台となっている。

### (2) 地域包括支援センターの認知度

高齢の方やそのご家族の相談を受けたり、高齢の方の心身の状態に合わせた支援を提供する地域の身近な相談機関である「地域包括支援センター」を知っているか聞いたところ、「知っているし利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせた【知っている(計)】はほぼ5割となっている。一方で、「知らない」との回答もほぼ半数を占めている。

### (3) 高齢社会における必要な施策

高齢社会において、どのような施策が必要だと思うか聞いたところ、「認知症の人やその家族を支援するサービスの充実」と「デイサービス、ホームヘルパーなどの在宅サービスの充実」が5割近くで最も高く、次いで、「地域包括支援センターなど身近な相談窓口の充実」

が4割近くと続いている。

### 13. もったいない運動について

#### (1) 「もったいない運動」の認知度

宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」について知っているか聞いたところ、「内容を知っており、実践している」と「内容を知っているが、実践はしていない」は2割となっており、これらを合わせた【知っている（計）】は5割となっている。一方、「知らない」は4割台となっている。

#### (2) 「もったいない運動」の認知経路

「もったいない運動」を知っていると答えた人に何で知ったか聞いたところ、「広報うつのみや」が6割台半ばで最も高く、次いで、「自治会の回覧」、「新聞・雑誌など」と続いている。

### 14. 宇都宮市における「小中一貫教育と地域学校園」について

#### (1) 「小中一貫教育と地域学校園」の認知度

平成24年度から全小中学校で始まった「小中一貫教育と地域学校園」を知っているか聞いたところ、「実施していることは知っているが、内容についてはよく知らない」(33.7%)が3割を、また、『小中一貫教育と地域学校園』という言葉は知っているが、実施していることを知らない(20.7%)は2割を超え、「広報紙やリーフレットを読んだことがあり、内容についてだいたい知っている」(13.9%)と「実施について大きな関心があり、内容についてもよく知っている」(4.5%)を合わせ、「小中一貫教育と地域学校園」の言葉や内容等を【知っている（計）】(72.8%)は7割を超えている。

### 15. 景観について

#### (1) 景観に対する関心度

宇都宮市の街並みなど景観に関心があるか聞いたところ、「非常にある」は1割台半ば、「ある」は6割を超えており、これらを合わせた【ある（計）】は7割台半ばとなっている。一方、「ない」と「非常にない」を合わせた【ない（計）】は1割半ばとなっている。

#### (2) 景観づくりを進めていくべき地域

宇都宮市で特にどのような地域において、良好な景観づくりを進めていくべきだと思うか聞いたところ、「中心部の商店街など人々が多く集まる地域」が6割で最も高くなっている。次いで、「市の玄関口である駅周辺地域」が5割台半ばとなっている。

#### (3) 景観づくりを進めていく上での取組みや規制

市が良好な景観づくりを進めていく上で、どのような取組みや規制が必要だと思うか聞いたところ、「乱雑な広告物を減らすこと」と「道路上の電線を地下に埋めること」が4割で高くなっている。次いで、「田園や河川など自然を保全すること」と「道路の舗装や街路灯等を高質化すること」が3割台となっている。